OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	がん患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼす配偶者の行為とそのメカニズム
Author(s)	塩崎, 麻里子
Citation	生老病死の行動科学. 2005, 10, p. 139-146
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/8553
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

がん患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼす配偶者の行為とそのメカニズム

Spouse's behavior and its mechanisms negatively affecting the psychological adjustment of cancer patient

（大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程 日本学術振興会） 塩 崎 麻里子

Abstract

The relationship between cancer patients and their spouses appears to be the particularly important determinant of patients' psychological adjustment. Thus, various social support studies focusing their relationships were conducted. Although social support literature has examined the positive effects of spouse's helpful and supportive responses on patients' psychological adjustment, relatively little attention has been paid to understanding the effects or the potential mechanisms of unhelpful or unsupportive responses. However, unsupportive interactions have been found to have greater impacts on cancer patients' psychological adjustment than supportive interactions. Therefore, in this paper, studies focusing on following issues were reviewed: 1) spouse' unhelpful or unsupportive responses effecting negatively on patients' psychological adjustment, 2) mechanisms for the effects of spouse's unhelpful responses on patients' psychological adjustment. Then, future prospects are discussed.

Key word : cancer patients, spouse's behavior, negative effects, mechanism

Ⅰ はじめに

人と人との日常的な関係が、心身の健康に影響を及ぼすことは、ソーシャルサポート（social support）の研究領域で検討されてきた。ソーシャルサポートとは、一般的には「他者から提供される有形・無形の援助」と定義され、多くの人から多種類のサポートを得ている人は、ストレスフルな出来事を経験しても、あまりストレスを感じず、実際にうまくその出来事に対処できるため、より健康的であると考えられている（深田, 2001）。それは、日常的な些細な出来事だけでなく、がんなどの生命を脅かす疾患に罹患するといった重大な出来事に関しても、同様であることが示されている。例えば、患者が他者との関係において知覚しているサポートの量や頻度（Hann, Winter & Jacobson, 1999）、必要になった場合に助けてくれると思う人数や、期待できるサポートの量（Bloom & Kessler, 1994; Klemm, 1994）、ソーシャルネットワークの大きさ（Funch & Marshall, 1983）や、社会的コンタクトの数（Bloom, 1982）、悩み事に関して話ができる人数（Northouse, 1988）、対人関係の質（Koopman, Hermanson, Dimond, Angell, & Spiegel, 1998）、現在のサポートに関する満足度（Hann et al, 1999）が充分であることが、がん患者の心理的適応に良い影響を及ぼすことが示されている。

また、親しい他者の中でも配偶者とのサポート関係に対する満足感はがん患者の心理的適応に強い関連を示すことが知られており（Manne, Pape, & Fang, 1998）、診断から長期療養生活に至るすべての過程において、配偶者との関係は重要であることが強調されてきた（Manne, Taylor, Dougherty, & Kemeny, 1997; Primomo, Yates, & Woods, 1990）。がん患

者と配偶者という二者間におけるソーシャルサポート研究では主に、配偶者から患者へのサポートが、患者の心理的適応にどのような影響があるかが検討されてきた。その結果多くの研究によって、配偶者はがん患者にとって情緒的サポートの主たる担い手であり（e.g., Pistrang & Barker, 1995; Neuling & Winefield, 1988）、配偶者から充分な情緒的なサポートを得られている患者は、抑うつが低く（e.g., Hann et al., 1999）、心理的適応が良い（e.g., Bloom, Stewart, Johnston, Banks, & Fobair, 2001）ことが示されてきた。

しかし、親しい他者との関係は患者の心理的適応に良い影響を与えるだけでなく、関連がない（Bolger, Fosterm Vinokur, & Ng-Rosanna, 1996）、また悪い影響を与えること（Dunkel-Schetter & Wortman, 1982; Perters-Goldman, 1982）もある。特に、配偶者は、患者が最もサポートを求める重要な他者であることが多いため（e.g., Pistrang et al., 1995）、患者への影響は大きい。また、配偶者の協力的な行為が患者の心理的適応に及ぼすポジティブな影響よりも、配偶者の非協力的な行為が患者の心理的適応に及ぼすネガティブな影響は強く、深刻であることが報告されている（e.g. Manne et al., 1997）。そのため、がん患者と配偶者の二者関係を扱った研究の最近の流れとして、配偶者のどのような行為・反応・対応ががん患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼすのかについて検討がなされるようになった。それと同時に、配偶者の行為がなぜ患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼすのかといった潜在的メカニズムに焦点を当てた研究も注目されている。そこで、本論ではがん患者と配偶者の二者関係について、患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼす配偶者の行為について検討された研究と、配偶者の行為が患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼすメカニズムについて検討された研究を概観し、今後求められる研究について述べる。

Ⅱ　がん患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼす配偶者の行為

がん患者の心理的適応に配偶者の行為が及ぼす影響を検討した研究の多くは、配偶者のサポート（例えば、共感的、情報的、道具的、尊重的サポート；Neuling et al., 1988）が、患者の心理的適応にポジティブな影響を及ぼすことを示してきた（e.g., Bloom et al., 2001）。特に、配偶者からの情緒的サポートは、患者の心理的適応と強い関連を示していた（Manne et al., 1997; Primomo et al., 1990））。それに対して、がん患者の心理的適応に配偶者の行為が及ぼすネガティブな影響を取り上げた研究は、圧倒的に数が少ない（Manne & Schnoll, 2001）。以下に、がん患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼす配偶者の行為について検討した研究について、述べる。

がん患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼす配偶者の行為を探索的に検討し、近年の研究に大きな影響を与えたのが、Dakof & Taylor（1990）の研究である。この研究では、55名のがん患者を対象にインタビュー調査を行い、98％の患者が配偶者からのサポートが助けとなった経験があると回答し、61％の患者が配偶者からのサポートが助けにならなかった経験があると回答したことを報告した。さらに、がん患者が助けとならなかったと認知した配偶者の行為として、患者の病気に対する反応を批判すること、患者が受けた病気からの影響を過小評価すること、過剰に心配や悲観を示すこと、患者に対して共感・悩み・感情などの関心を示さないことといった4つの行為を明確に示したことが意義深い。その後のいくつかの研究によって、患者にとって助けとならない配偶者の行為は、病気やそれによって派生した問題について患者と話すことを回避すること（e.g. Dunkel-Schetter & Wortman, 1982; Manne et al.,

1997)、患者自身を避けること（e.g. Dunkel-Schetter & Wortman, 1982; Manne et al., 1997; Perters-Golden, 1982)、問題に関与することから撤退すること（Manne & Schnoll, 2001)、患者の要求を拒否すること（Primomo et al., 1990)、患者を過剰に管理・干渉すること（Kuijer, Ynema, Buunk, De-Jong, Thijsboer, & Sanderman, 2000）などがあることが、報告されている。

このような患者にとって助けとならない配偶者の行為は、患者の心理的適応（e.g. de Ruiter, de Hae, & Tempelaar, 1993; Koopman et al., 1998; Manne et al., 1997)、感情状態（Hoskins, 1995）にネガティブな影響を及ぼすことが、一貫して示されている。また、そのネガティブな影響は、配偶者の適切なサポートや助けとなる行為が患者の心理的適応に及ぼすポジティブな効果よりも大きいことが示されている（e.g. Manne et al., 1997）ため、これらの知見から得られる夫婦関係に問題を抱えている患者と配偶者への示唆は有益である。さらに、このような影響の受けやすさや強度は、性別によって異なることが示されており（Northouse, Mood, Templin, Mellon, & George, 2000)、女性患者は男性患者に比べて、配偶者から適切なサポートがあるかどうかによって心理的適応に影響を受けやすいことが知られている（Acitelli & Antonucci, 1994)。そのため、特に夫婦関係に問題を抱えている女性がん患者とその配偶者に対しての情報提供、介入による改善が望まれている。

Ⅲ　配偶者の行為が患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼすメカニズム

がん患者と配偶者を対象とした多くのソーシャルサポート研究の主たる関心事は、配偶者が患者のために行うサポート行動が、患者の心理的適応にどのような影響を及ぼすかといったサポートの効果についてであった。それらの研究とは別に、なぜ配偶者の行動が患者の心理的適応に影響を及ぼすのかといったメカニズムに注目し、様々な媒介変数を用いて、配偶者の行動が患者の心理的適応に及ぼす影響を説明しようとする検討がなされている。例えば、配偶者からのソーシャルサポートは、患者の自尊心を高める結果、心理的適応にポジティブな影響を及ぼすことが示されている（Symister & Friend, 2003)。また、配偶者からのサポートは、ストレスに対する脅威の認知を弱め、肯定的再評価というコーピングが促されることによって、心理的適応にポジティブな影響を及ぼすことが示されている（Manne, Pape, Taylor & Dougherty, 1999; Manne & Zautra, 1989)。このようなポジティブな影響に関するメカニズムに比べて、ネガティブな影響に関するメカニズムはあまり検討されてこなかった（Manne & Glassman, 2000; Manne, Pape, Taylor, & Dougherty, 1999)。以下に、ネガティブな影響を検討したいくつかの研究について、述べる。

患者にとって助けとならない配偶者の行為が、患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼす際に、媒介となる変数として検討されているのは、自尊心、コーピング、コーピングエフィカシー、疾患に対するコントロール感である。これらの媒介変数は、配偶者の行為がその変数に及ぼす影響、その変数が患者の心理的適応に及ぼす影響について、それぞれ別個に検討されてきた変数である（e.g. Thoits, 1995; Holahan & Moos, 1990; Dunkel-Schetter, Feinstein, Taylor, & Falke, 1992; Gignac & Gottlieb, 1996)。つまり、配偶者の行為が患者の心理的適応に及ぼす影響のメカニズム研究は、これらの知見を根拠に、メカニズムを説明するモデルを構築し、検証しているといえる。

まず、自尊心に関しては、配偶者の患者に対する適切でない行為が、患者の自尊心を低下さ

せ、その結果、患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼすという結果が得られた研究(Norton, Manne, Rubin, Hernandez, Carlson, Bergman, & Rosenblum, 2005;)と、自尊心は両変数を媒介しないという結果が得られた研究(Symister & Friend, 2003)があり、一致した見解は得られていない。また、コーピングに関しては、認知的回避・行動的回避を含む回避的コーピングが、媒介変数となりうることが示されている(Manne et al., 1999)。複数の媒介変数に関する多くの示唆が得られた研究として、Manne & Glassman (2000)の研究が挙げられる。この研究では、191名(男性:79名, 女性:112名)のがん患者を対象に、配偶者からの批判、回避といった二種類の適切でない行為が、心理的適応(不安・抑うつ)に及ぼす影響を媒介する変数として、回避的コーピング、疾患に対するコーピングエフィカシー、疾患に対するコントロール感を取り上げ、構造方程式モデリングを用いて検討している。その結果、配偶者の患者に対する批判・回避は、患者のコーピングエフィカシー(r=-0.29)とコントロール感(r=-0.26)、回避的対処(r=0.22)に影響を与えていたが、さらに心理的ディストレスに有意な影響を与えていたのは、そのうち回避的コーピング(r=0.30)とコーピングエフィカシー(r=-0.42)であり、コントロール感は心理的ディストレスを媒介しないことが示された。配偶者が患者に対して批判・回避を示すことによって、患者が抱えている問題や感情を配偶者に開示できなくなる、あるいは、問題を解決しようとしなくなるという回避的コーピングが促されること、また、患者の疾患に対するコーピングにポジティブな反応が得られないことで、コーピングエフィカシーが低下し、心理的適応にネガティブな影響を及ぼすことは仮説通りの結果であった。一方、疾患に対するコントロール感の心理的適応への影響は有意でなく、仮説は検証されなかった。その理由としては、コントロール感とコーピングエフィカシーとの相関が高かかったため2変数間の多重共線性の問題が考えられるが、詳細な検討はなされておらず、今後の検討が望まれている。

このように、配偶者の行為ががん患者の心理的適応に及ぼす影響のメカニズムを解明することを目的とした研究は、まだ始まったばかりであり、知見が積み重ねられているとは言いがたい。しかし、配偶者の行為が患者の心理的適応に及ぼすネガティブな影響の緩衝要因について検討した研究(Manne, Ostroff, Sherman, Glassman, Ross, Goldstein, & Fox, 2003)が行われるなど、配偶者の行為とがん患者の心理的適応についてのメカニズムは徐々に明らかになりつつあり、それらの知見をどのように臨床場面に応用するかについて、今後大いに期待される研究課題である。

Ⅳ　おわりに

本論では、がん患者と配偶者の二者関係について、患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼす配偶者の行為に関する研究と、配偶者の行為が患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼすメカニズムが検討された研究を概観した。従来のソーシャルサポート研究から得られていた示唆は、がん患者の心理的適応において配偶者との関係が非常に重要であること、患者の心理的適応を促進させる一つの方法としてサポート環境を整えることが有益であること、サポートの少ないハイリスク患者への早期介入が重要であることなどであったのに対して、二者関係におけるこれらの知見は、夫婦関係に問題を抱えるがん患者と配偶者に対してより具体的な示唆を与えるものであった。さらに、メカニズムの研究によって、患者にとって配偶者との関係は、患者ががんにコーピングしていく過程において、非常に有効な資源ともなり、また逆に、

心理的適応を阻害する要因ともなりうることが示され、夫婦関係を整えることで、患者の持つコーピング能力を高めることも可能であることが示唆されたといえる。

また、がん患者と配偶者の関係性に着目した有益な研究として、患者にとってネガティブな影響を及ぼす配偶者の行為がなぜ生じ、維持されているかといったメカニズムを解明する研究が挙げられる。考えうる仮説として、例えば、配偶者が患者を援助する目的で行う行為が患者にとっては有益でないという、サポートに対する認識が一致していない場合が考えられる(Kuijer et al., 2000)。また、いくつかの研究で示されているように、配偶者の患者に対する過剰に保護的な行為は、配偶者自身の不安が高い、疾患に対する対処可能感が低い、ケア提供の責任を果たせていないという罪悪感が強いという、配偶者側の問題から引き起こされていること (e.g. Thompson, Galbraith, Thomas, Swan, & Vrungos, 2002) も考えられる。配偶者の不適切な行為が維持されているメカニズムを研究することによって、患者だけでなく、配偶者に対しての支援を考える上での基礎資料を提供することが期待される。今後、がん患者と配偶者の二者関係についてより深く理解し、示唆に富んだ知見を得るためには、二者の相互関係を考慮に入れた研究、がん患者と配偶者の両者の視点を取り入れた研究、縦断的な研究など、二者関係を動的に捉える研究が必要となるであろう。

また、本論では、がん患者と配偶者の二者関係を扱った欧米の研究を概観してきたが、日本には集団主義、同質社会、間柄主義、恥・甘えの文化といった独自の対人関係観が存在する(柏木, 1995)。特に、夫婦という密接な対人関係を研究し、臨床的知見へと洗練させていくためには、文化的相違を考慮した上で、我が国のがん患者と配偶者を対象に、研究を積み重ねていくことが重要であることを忘れてはならない。

最後に、がん患者と配偶者の二者関係におけるサポートは、ネガティブな心理状態を緩和するだけでなく、ポジティブな心理状態を高揚させる可能性も秘めている。がん患者と配偶者の心理的適応は強い関連があることは、既に多くの研究によって示されている (e.g., Fang, Manne, & Pape, 2001; Baider & De-Nour, 1999)。したがって今後は、がん患者と配偶者の両者の心理的適応を図ることが重要であり、さらに両者の相互作用によってネガティブな側面を改善するだけでなく、ポジティブな側面を高揚させることを視野にいれた研究が、強く求められる。

引用文献

Acitelli, L. K., & Antonucci, T. C. 1994 Gender differences in the link between marital support and satisfaction in older couples. *Journal of Personality and Social Psychology,* 67, 688-698.

Baider, L., & De-Nour, A. 1999 Psychological distress of cancer couples : a leveling effect. *New Trends Exp clinical psychiatry,* 15, 197-203.

Bloom, J.R. 1982 Social support, accommodation to stress and adjustment to breast cancer. *Social Science and Medicine,* 16, 1329-1338.

Bloom, J.R., & Kessler, L. 1994 Emotional support following cancer: A test of the stigma and social activity hypotheses. *Journal of health and social behavior,* 35, 118-133.

Bloom, J.R., Stewart, S.L., Johnston, M., Banks, P., & Fobair, P. 2001 Sources of support and the physical and mental well-being of young women with breast cancer. *Social*

Science and Medicine, 53, 1513-1524.

Bolger, N., Foster, M., Vinokur, A. D., & Ng-Rosanna. 1996 Close relationship and adjustment to a life crisis: The case of breast cancer. Journal of Personality and Social Psychology, 70, 283-294.

Dakof, G., & Taylor, S. 1990 Victims' perceptions of social support: What is helpful from whom? *Journal of Personality and Social Psychology,* 58, 80-89.

Dankel-Schetter, C., Feinstein, L. G., Taylor, S. E., & Falke, R. L. 1992 Patterns of coping with cancer. *Health Psychology,* 11, 79-87.

Dankel-Schetter, C.,& Wortman, C. 1982 The interactional dynamics of cancer: Problems in social relationships and their impact on the patient. In H. S. Friedman & M. R. DiMatteo (Eds.) , Interpersonal issues in health care (pp. 69-100) . New York: Academic Press.

de Ruiter, J., de Haes, J., Tempelaar, R. 1993 Cancer patients and thier network : The meaning of the social network and social interactions for quality of life. *Support Care in Cancer,* 1, 152-155.

Fang, C. Y., Manne, S. L., & Pape, S. J. 2001 Functional impairment, marital quality, and patient psychological distress as predictors of psychological distress among cancer patients' spouses. *Health Psychology,* 20, 452-457.

深田博己　2002　コミュニケーション心理学—心理学的コミュニケーション論への招待—　北大路書房　3, 168-171.

Gignac, M. A., & Gottlieb, B. H. 1996 Caregivers' appraisals of efficacy in coping strategies. *Journal of Personality and Social Psychology,* 52, 946-955.

Funch, D.P., & Marshall, J. 1983 The role of stress, social support and age in survival from breast cancer. *Journal of Psychosomatic Research,* 27, 77-83.

Hann, D., Winter, K., & Jacobson, P. 1999 Measurement of depressive symptoms in cancer patients: evaluation of the Center for Epidemiological Studies Depression Scale (CES-D). *Journal of Psychosomatic Research,* 46, 437-443.

Holahan, C., & Moos, R. 1990 Life stressors, resistance factors, and improved osychological functioning; An extension of the stress resistance paradigm. *Journal of Personality and Social Psychology,* 58, 909-917.

柏木哲夫　1995　死を学ぶ　有斐閣

Klemm, P.R. 1994 Variables influencing psychosocial adjustment in lung cancer: A preliminary study. *Oncology Nursing Forum,* 21, 1059-1062.

Koopman, C., Hermanson, K., Dimond, S., Angell,K., & Spiegel, D. 1998 Social support, life-stress, pain and emotional adjustment to advanced breast cancer. *Psycho-Oncology,* 7, 101-111.

Kuijer, R. G., Ybema, J. F., Buunk, B. P., De-Jong, G. M., Thijs-Boer, F., & Sanderman, R. 2000 Active engagement, protective buffering, and overprotection: Three ways of giving support by intimate partners of patients with cancer. *Journal of Social and Clinical Psychology,* 19, 256-275.

Manne, S., & Glassman, M. 2000 Perceived control, coping efficacy, and avoidance coping as mediators between spouses' unsupportive behaviors and cancer patients' psychological distress. *Health Psychology,* 19, 155-164.

Manne, S., Ostroff, J., Sherman, M., Glassman, M., Ross, S., Goldstein, L., & Fox, K. 2003 Buffering effects of family and friend support on associations between partner unsupportive behaviors and coping among women with breast caner. *Journal of Social and Personal Relationships,* 20, 771-792.

Manne, S., Pape, S. J., & Fang, C. 1998 Marital satisfaction, functional impairment, and distress among cancer patients. In A. Stanton (Chair) , Intimate relationships after cancer diagnosis. Symposium conducted at the 106th Annual Sessions of the American Psuychological Association, Los Angeles.

Manne, S., Pape, S., Taylor, K., & Dougherty, J. 1999 Souse support, coping and mood among individuals with cancer. *Annuals of behavioral Medicine,* 21, 111-121.

Manne, S., & Schnoll, R. 2001 Measuring supportive and unsupportive responses during cancer treatment: A factor analysis assessment of the partner response to cancer inventory. *Journal of Behavioral Medicine,* 24, 297-321.

Manne, S., Taylor, K., Dougherty, J., & Kemeny, N. 1997 Social support and negative response in the marital relationship: Their association with psychological adjustment among individuals with cancer. *Journal of Behavioral Medicine,* 20, 101-125.

Manne, S, L., & Zautra, A. J. 1989 Spouse criticism and support: Their association with coping and psychological adjustment among women with rheumatoid arthritis. *Journal of Personality and Social Psychology,* 56, 608-617.

Neuling, S., & Winefield, H. 1988 Social support and recovery after surgery for breast cancer: Frequency and correlates of supportive behaviors by family, friend, and surgeon. *Social Science and Medicine,* 27, 385-392.

Northouse, L. L. 1988 Social support in patients' and husbands' adjustment to beast cancer. *Nursing Research,* 37, 91-95.

Northouse, L. L., Mood, D., Templin, T.,& Mellon,S. 2000 Couples' patterns of adjustment to colon cancer. *Social Science and Medicine,* 50, 271-284.

Norton, T. R., Manne, S. L., Rubin, S., Hernandez, E., Carlson, J., Bergman, C., & Rosenblum, N. 2005 Ovarian cancer patients' psychological distress: The role of physical impairment, perceived unsupportive family and friend behaviors, perceived control, and self-esteem. *Health Psychology,* 24, 143-152.

Perter-Golden, H. 1982 Breast cancer: Varied perceptions of social support in the illness experience. *Social Science and Medicine,* 16, 483-491.

Pistrang, N., & Barker, C. 1995 The partner relationship in psychological response to breast cancer. *Social Science and Medicine,* 40, 789-797.

Primomo, J., Yates, B. C., & Woods, N. F. 1990 Social support for women during chronic illness: The relationship among sources and types to adjustment. *Research in nursing and health,* 13, 153-161.

Symister, P. & Friend, R. 2003 The influence of social support and problematic support on optimism and depression in chronic illness: A prospective study evaluating self-esteem as a mediater. *Health Psychology,* 22, 123-129.

Thoits, P. A. 1995 Social support as coping assistance. *Journal of Consulting and Clinical Psychology,* 54, 416-423.

Thompson, S., Galbraith, M., Thomas, C., Swan, J., & Vrungos, S. 2002 Caregivers of stroke patient family members: Behavioral and attitudinal indicators of overprotective care. *Psychology and Health,* 17, 297-312.

Zautra, A. J., & Wrabetz, A. B. 1991 Coping success and its relationship to psychological distress for older adults. *Journal of Personality and Social Psychology,* 61, 801-810.